

サブ・サハラ・アフリカにおける
農業開発協力のあり方に関する基礎研究
報 告 書

平成9年8月

国際協力事業団
国際協力総合研修所

総 研

J R

97-50

序 文

サブ・サハラ・アフリカは、マイナス経済成長の悪循環から抜け出せない最貧困国を多く抱えており、この地域のほとんどの国では食糧の自給が困難となっている。1950年代から1960年代後半頃にかけて旧植民地から独立した多くの国で、独立後、急速な工業化・近代化政策が押し進められたが、その結果、農業政策には重点がおかれてこなかった。即ち、この問題の主な原因として、これら諸国内での穀物生産に必ずしも十分な配慮がなされてこなかったことなどが指摘されているのである。加えて、1970年代からサブ・サハラ・アフリカ地域に対し世銀やIMFの構造調整政策が始められたにもかかわらず、同地域の食糧生産はほとんど改善されていない。

このような背景に鑑み、国際協力事業団(JICA)は平成8年3月、国際食糧政策研究所(International Food Policy Research Institute - IFPRI)との共催の下、「IFPRI2020ビジョンと援助に関するJICA/IFPRI合同セミナー 南アジアとサブ・サハラ・アフリカにおける食糧、貧困と環境」を開催した。この合同セミナーでは、2020ビジョンが紹介されるとともに、JICAがこれまでの技術協力から得た経験の蓄積に基づき、南アジア及びサブ・サハラ・アフリカ地域における食糧農業問題、環境問題や貧困の解消と持続的開発のための協力のあり方が討議された。

以上の経緯を踏まえ、国際協力総合研修所では、サブ・サハラ・アフリカにおける食糧需給の見通しのレビュー及び過去の農業開発協力の事例の検討、援助の効果的実施に必要な基本的留意事項の整理を行い、今後の効果的な農業開発協力のあり方の検討に資する基礎資料を作成した。

本調査研究の取りまとめは、本研究会の紙谷貢座長(食料・農業政策研究センター理事長)を始めとする研究会及びタスクフォースメンバーの努力に負うところが大きい。また、本調査研究にあたっては、各方面から多大な協力を頂いた。ここに、心より感謝申し上げたい。

なお、本報告書に記載された内容は、研究会及びタスクフォースメンバーが執筆したものであり、国際協力事業団の意見を代表するものでないことを申し添える。

平成9年8月

国際協力事業団
国際協力総合研修所
所長 五十嵐 禎三

要 約

1. **第1章「調査研究の概要」**では、本調査研究の背景及び目的、内容と範囲、実施体制、実施期間、現地調査の要点及び原稿執筆の分担について記した。
2. **第2章「21世紀初頭における世界食糧需給の見通し」**では、まず、近年の世界経済の動きを概観し、経済環境の変化による開発途上諸国の食糧需給への影響を説明したうえで、食糧需給に直接的な影響を及ぼすもうひとつの要因として、人口増加率の問題について指摘した。このような開発途上国における経済と食糧需給の諸問題を踏まえ、国際機関が発表した世界の食糧需給予測の概要について述べ、さらに、資源面、技術的改善面、流通面に見られる食糧需給の制約要因について検討した。
3. **第3章「サブ・サハラ・アフリカ地域における食糧需給の見通し」**では、西アフリカの農業と食糧問題について、同地域の16カ国における過去15年間の食糧、生産、輸入の推移を踏まえ、主要食糧作物の生産の動向と食糧生産に関する課題について考察を行うとともに、ナイジェリア連邦共和国の農業と食糧問題について、同国の歴史的背景と農業生産の経緯を踏まえて農業生産における制約要因と可能性、食糧需給の現状、そして今後の見通しについて検討した。一方、東アフリカの現状と見通しに関しては、ケニア、タンザニア、ウガンダの3カ国を対象国として取り上げ、これら諸国の人口、GNP、GDP、農業生産指数、食糧生産指数、主要作物の収容量等について、統計を基に比較検討することにより、同地域における食糧需給の見通しについて考察した。
4. **第4章「サブ・サハラ・アフリカ協力の現状」**では、我が国・JICAが、サブ・サハラ・アフリカ地域で実施してきたこれまでの開発協力の実績について、1970年代、1980年代、1990年代ごとに、その内容や特徴を整理した。
5. **第5章「サブ・サハラ・アフリカにおける農業開発協力の事例研究」**ではまず、サブ・サハラ・アフリカにおける灌漑開発の動向をレビューし、その問題点、原因そして今後のあり方についてまとめた。次にタンザニアを対象国として取り上げ、同国の経済の動向、食糧農業問題の現状を踏まえ、主に現地調査で得られた情報と知見をもとに農業開発協力プロジェクトの成果と問題について考えるとともに、ジンバブエについても、同国のこれまでの農業政策を概観した上で、同国での現地調査の結果に基づき農業開発協力の事例を取りまとめ、そこから得られた教訓を整理した。

6. 第6章「サブ・サハラ・アフリカ農業農業開発協力の今後の課題」では、サブ・サハラ・アフリカ地域における開発への取り組みを整理した上で、停滞する農業生産力の向上という同地域での農業開発の目標を踏まえて、時間的・空間的な整合性を維持するような長期的な計画性の必要性を論じている。さらに今後の重点分野として、土地及び水の合理的拡大のための基盤整備、集約的土地利用のための技術的改善、市場アクセスの改善とロスの減少、試験研究の強化、普及システムの強化に関して検討し、これらの課題について敏速な対応が望まれるとしている。加えて、アジアにおける我が国の農業協力の経験を、今後どのようにサブ・サハラ・アフリカ地域に活用し得るかも論じている。つまり、これまで我が国の農業開発協力は東南アジアに重きを置いてきたが、サブ・サハラ・アフリカ農業への接近を図るためには、技術的知識のみならず社会的情報についても集積を図る必要がある。また、過去40年間の農業開発協力の経験がアジアに偏しているとしても、そこで得られた教訓やノウハウは同地域でも大いに役立つであろう。第6章の最後では、DAC 新開発戦略にある中核的概念を確認している。即ち、この戦略では、各々の国の開発計画を尊重しつつ、先進国と開発途上国との開発活動における協同とドナー間での協調の綿密化を図るべく、相互の対話を進めることを重視しているのである。今後の農業開発協りに係るプロジェクト形成にあたっては、以上の概念を念頭において計画を具体化する必要がある。

目 次

序 文
要 約

第1章 調査研究の概要	1
1-1 背景及び目的	1
1-2 内容と範囲	1
1-3 実施体制	2
1-4 実施期間	3
1-5 現地調査	3
1-6 原稿執筆分担	3
第2章 21世紀初頭における世界食糧需給の見通し	5
2-1 開発途上国の経済と食糧需給	5
2-1-1 経済環境の変化	5
2-1-2 食糧需給と人口	8
2-2 世界の食糧需給の見通しとサブ・サハラ・アフリカ	10
2-2-1 国際機関による2010年の食糧需給予測	10
2-2-2 供給増大に対する制約	15
第3章 サブ・サハラ・アフリカ地域における食糧需給の見通し	20
3-1 西アフリカの農業と食糧問題	20
3-1-1 西アフリカの食糧問題	20
3-1-2 主要食糧作物の生産動向	21
3-1-3 西アフリカの食糧生産の課題	26
3-2 ナイジェリア連邦共和国の農業と食糧問題	28
3-2-1 歴史的背景と農業生産の変遷	28
3-2-2 農業生産の制約と成長の可能性・食糧需給の現状	30
3-2-3 今後の見通し	34
3-3 東アフリカの農業開発の現状と食糧需給の見通し - ケニア、タンザニア、ウガンダの3カ国 -	38
3-3-1 社会・経済環境	38
3-3-2 農業開発の動向	41
3-3-3 食糧需給の見通し	50
3-3-4 おわりに	53

第4章 サブ・サハラ・アフリカにおける農業協力の動向と現状	55
4-1 はじめに(1970年代).....	55
4-2 食糧危機と構造改革(1980年代).....	55
4-3 多面的な援助の展開を目指して(1990年代～現在).....	56
第5章 サブ・サハラ・アフリカにおける農業開発協力の事例	69
5-1 サブ・サハラ・アフリカでの小規模灌漑開発について	69
5-1-1 はじめに	69
5-1-2 調査研究の目的	70
5-1-3 調査研究の方法	71
5-1-4 調査研究の対象地域	73
5-1-5 調査研究の結果および考察	74
5-1-6 調査研究から得られた教訓	92
5-1-7 おわりに	93
5-2 タンザニア	95
5-2-1 タンザニアの経済と食糧農業問題	95
5-2-2 現地調査による知見	102
5-2-3 統括的所見	106
5-3 ジンバブエ	107
5-3-1 ジンバブエにおける農業	107
5-3-2 ジンバブエにおける農業開発協力の事例と動向	111
5-3-3 ジンバブエの事例から学べること	124
第6章 サブ・サハラ・アフリカ農業開発協力の今後の課題	128
6-1 サブ・サハラ・アフリカ農業の現状と課題	128
6-1-1 多様性の中の共通な課題	128
6-1-2 開発への努力と教訓	131
6-2 サブ・サハラ・アフリカ農業開発の課題	133
6-2-1 農業開発の目標と計画	133
6-2-2 当面对応を必要とする分野	134
6-3 効果的な協力実施に必要な基本留意事項	136
6-3-1 アジアにおける経験の適用可能性	136
6-3-2 パートナーとしての協力	137

第1章 調査研究の概要

1-1 背景及び目的

サブ・サハラ・アフリカは、近年のアジア地域のめざましい発展とは対照的に社会・経済開発が低迷し、マイナス経済成長の悪循環から抜け出せない最貧困国を多く抱えている。この地域のほとんどの国では食糧の自給が困難であり、急速な人口増加に伴う食糧の輸入にかかる支出の増大に苦しんでいる。これは1950年代から1960年代後半頃旧植民地から独立した多くの国で、独立後、急速な工業化・近代化政策が推し進められ、当時農業政策には重点が置かれなかったことや、農業振興を優先した国においても輸出換金作物に重点が置かれたことから、自国内の穀物生産が軽視されたこと等に原因があったと考えられている。

また、1970年代から同地域に対し世銀・IMFの構造調整政策が始められ、農業政策についても様々な勧告や解決策が勧められてきたにもかかわらず、同地域の食糧生産はほとんど改善されていない。

このような背景に鑑み、国際協力事業団(JICA)は平成8年3月、国際食糧政策研究所(International Food Policy Research Institute - IFPRI)との共催の下、「IFPRI2020ビジョンと援助に関するJICA/IFPRI合同セミナー 南アジアとサブ・サハラ・アフリカにおける食糧、貧困と環境」を開催した。この合同セミナーでは、2020ビジョンが紹介されるとともに、JICAがこれまでの技術協力から得た経験の蓄積に基づき、南アジア及びサブ・サハラ・アフリカ地域における食糧農業問題、環境問題や貧困の解消と持続的開発のための協力のあり方が討議された。

JICAにおいては、これまで様々な農業開発協力が実施されており、近年では特に住民参加型開発、環境保全型開発等の重要性が注目されてきている。しかし、JICA全体としてのこの地域の農業開発協力に関する基本的な考え方や効果的な取り組み方等について、さらに検討を行い、一層の明確化を図ることが求められている。

本調査研究では、以上の背景のとともにサブ・サハラ・アフリカ地域における食糧・農業問題の解決と持続的開発に寄与する協力のあり方を検討し、今後のJICAによる協力の指針の基礎資料を作成することを目的としている。

1-2 内容と範囲

本調査研究の内容と範囲は以下の点を網羅する。

- (1) 21世紀初頭における世界食糧需給の見通しのレビュー
- (2) サブ・サハラ・アフリカ地域における農業開発の現状と食糧需給の見通しのレビュー
- (3) これまでの農業開発協力の概観
- (4) 過去の同地域における農業開発協力の事例研究・分析(同地域における灌漑開発事業、タンザニア及びジンバブエにおける農業開発協力の事例)
- (5) 農業開発協力の今後の課題の整理・分析

1-3 実施体制

本調査研究は直営方式により実施した。本調査研究を実施するため、外部有識者、JICA職員、JICA国際協力専門員により構成される研究会及びタスク・フォースを設置した。なお、事務局は調査研究課とした。

(1) 研究会

紙谷 貢(座長)	食糧・農業政策研究センター理事長
加藤 和憲	国際協力専門員
黒柳 俊之	無償資金協力業務部フォローアップ業務課長
斎藤 登	農林水産開発調査部計画課長
中林 一夫	国際協力専門員
鍋屋 史朗	農業開発協力部畜産園芸課長
西川 芳昭	長崎ウエスレヤン短期大学助教授
原口 武彦	新潟国際情報大学教授
半沢 和夫	日本大学国際地域開発学科助教授

以上、9名で構成された。

(2) タスク・フォース

柿沼 潤	技術協力専門家養成研修コースリーダー(平成8年9月～12月)
中井富美子	農林水産開発調査部農業開発調査課ジュニア専門員
中曽根勝重	東京農業大学国際農業開発学科大学院生

以上、3名で構成された。

(3) 事務局

新垣 修 国際協力総合研修所調査研究課ジュニア専門員

1-4 実施期間

本調査研究の実施期間は平成8年7月から平成9年8月までであった。その間、6回の検討会を開いた。

1-5 現地調査

サブ・サハラ・アフリカにおける農業開発協力のあり方に関し、同地域諸国の関係者と意見交換を行うとともに、関係プロジェクトの視察、他のドナーとの意見交換等を行うことにより、国内での文献調査を補完し、もって本調査研究の提言のとりまとめに資することを目的として、タンザニア(紙谷座長及び新垣ジュニア専門員：平成9年1月26日～2月7日)及びジンバブエ・英国(西川委員：平成9年2月6日～2月18日)に調査団を派遣した。

1-6 原稿執筆分担

第1章 調査研究の概要	事務局
第2章 21世紀初頭における世界食糧需給の見通し	紙谷
第3章 サブ・サハラ・アフリカ地域における食糧需給の見通し	
3-1 西アフリカの農業と食糧問題	原口
3-2 ナイジェリア連邦共和国の農業と食糧問題	中曽根
3-3 東アフリカの農業開発の現状と食糧需給の見通し	半澤
第4章 サブ・サハラ・アフリカにおける農業開発協力の動向と現状	斎藤
第5章 サブ・サハラ・アフリカにおける農業開発協力の事例研究・分析	
5-1 サブ・サハラ・アフリカでの小規模灌漑開発について	加藤

5-2 タンザニア

紙谷

5-3 ジンバブエ

共同執筆

西川、中井

第6章 農業開発協力の今後の課題

共同執筆

紙谷、齋藤、
鍋屋

(敬称略)